植物と人々の博物館メールマガジン

第 100 号　2023 年 6 月 3 日発行

テッセンが百花満開で、アジサイやバンマツリが咲き、梅雨が近いです。ユリの蕾も開きました。素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、ご一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

はじめに

本紙も 100 号になりましたが、今年は国際雑穀年ですので、しばらく発行を続けます。植物と人々の博物館を再び公共の場所で復活するように、特別なお願いをします。

植物と人々の博物館は山梨県小菅村と東京学芸大学の社会連携協定により、2017 年まで小菅村中央公民館内に置かれていました。耐震工事を契機に小菅村中央公民館から出されて、設置場所を失ったところ、井狩の細川本家付設の倉庫をご厚意で借用することができて仮運営をしています。研究者や市民からお預かりした、世界中から収集した多くの、貴重な植物標本、民具、調査資料、書籍などは社会的共通財ですから、本来、公共の場で、一般公開することが望ましいです。

そこで、世界農業遺産登録を目指している雑穀街道の中心地である上野原市西原の旧西原小学校を借用し、学習・研究を基に観光と地場産業を振興することを目的として、移転できないかと上野原市長にお願いしました。前向きのお返事はありませんが、地元の NPO さいはらは賛同してくださっているので、経営計画が立てば、可能性はあると思われます。国際雑穀年は日本で見捨てられてきた雑穀ほか在来作物を再評価する千載一遇の最後の好機です。編集子にはこの先はありませんので、この企画に関しては多くの皆様のご助力を切にお願いします。友の会会員になって、ご一緒に博物館づくり活動をしてくださるとうれしいです。

１．植物と人々の博物館

〇予定

1）開館・作業予定日：未定

〇報告

1）公共の場における再公開について、新たな可能性を探りながら、試案を検討しています。上野原市長に 4 月 24 日に面会して、旧西原小学校への移転をご提案しました。5 月 14 日には NPO さいはら理事長ともお話しました。

2）民族植物学ノオト第 17 号は寄稿があれば 2024 年 3 月末に発行する予定です。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグ

ッズの項）で読めます。　　http://www.ppmusee.org/goods.html

3）電子書籍：

編集子は自選集 IV『雑穀の民族植物学―インド亜大陸の農山村から』は序章から第３章インド亜大陸の食文化までを改定して公開しました。今後は旅行記録を順次公開しながら、雑穀の起源と伝播の仮設の検証を記していきます。第 4 章南インドの雑穀文化複合をまとめています。同時に、これらのまとめとして自選集 V“Essentials of Ethnobotany”の一部公開を進めます。自選集 VI『随筆集―生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

westturkistan.pdf (milletimplic.net)

http://www.milletimplic.net/indiansubcont/westturkistan.pdf

4）公式 HP：植物と人々の博物館　http://www.ppmusee.org/に含めて民族植物学関係 HP:**生き物の文明への黙示録**も国会図書館インターネット資料収集保存事業(ndl.go.jp)で毎年 1 回収録されます。　　http://www.milletimplic.net/

5）森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」、「つぶつぶ」、『脳と森から学ぶ日本の未来：共生進化を考える』（稲本正著）ほかをいただきました。ありがとうございました。月刊「クリンネス」へのエッセイ隔月連載は今年も続けます。去年は花の香でしたので、本年は花の色を話題にします。季刊「つぶつぶ」への連載、雑穀物語 2～降矢静夫夫妻も書いています。

6）植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のために会員になってくださるか、ご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。雑穀街道普及会も含めて、費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

すでにご寄付を頂き、感謝しています。説明用冊子の印刷（4 刷で総計 2000 部）と雑穀栽培講習会の農具や肥料の経費に使用させていただいています。今後、計画が進行するようなら、クラウド・ファンディングや助成・補助も考えたいと思います。

7）雑穀街道の普及、植物と人々の博物館再興については、谷崎テトラさん（プロデューサー）、稲本正さん（オークヴィレッジ）が積極的に企画してくださるとのことで、5 月 14 日に、梶間陽一さん（映像作家ディレクター）とともに編集子がご案内して雑穀街道巡検をしました。ミューゼス研究会代表亀井雄次さん、NPO さいはら理事長の長田英富さん、冨澤太郎さん、中川智さんらにご紹介しました。

2. 自然文化誌研究会　今年度の主な予定　　詳細はホームページでご覧ください。

８月 4 日(金)～10 日(木)、こすげ冒険学校、６泊７日、 20 名

小菅村のいつものキャンプ場
８月中未定、タイ環境学習キャンプ、15 名、ウタイタニ国立公園、パンダキャンプ他
９月 30 日(土)～10 月 1 日(日)、INCH まつり（ライブ）、30 名
小菅村のいつものキャンプ場
12 月下旬（23-25 or 26-28）、まふゆのキャンプ、15 名
小菅村のいつものキャンプ場

3. 雑穀街道普及会：

この活動は、中川さんや編集子のような、出アフリカ古層 A 型の子孫、縄文人の末裔を自認するものは自然と共存して生業を継承し、過剰便利に抵抗して雑穀栽培を伝承してきました。縄文土器を博物館に展示することも大事ですが、先人が生きたまま毎年種子を播いて、郷土食を調理して継承してきた雑穀の種子を切らさないことにも関心を向けていただきたいです。かさねて、日本列島における縄文農耕の歴史、その伝統的知識体系の蓄積を絶やさないように、もう時が迫っているので、基層文化を消滅させないように切にご助力をお願いします。雑穀街道地域は縄文時代中期の勝坂土器文化圏に重なります。

簡単な栽培方法は次のサイトにも公開してあります。家庭菜園や雑穀に関するご質問にはメールくだされば、いつでもお答えします。

http://www.milletimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf

雑穀街道普及会は下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。
http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html

なお、50 年間、定点参与観察、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第 3 章関東地方・第 4 章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletsn/jnpmilvil.html

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、さらに「街道美味」は雑穀製品、佐野川茶やクラフト・ビールを紹介していますので、下記のホームページをご覧ください。会費はありません。寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようにお願いしています。

遠くアフリカ、インドなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が 90 歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。

○報告

雑穀街道普及会の方向転換：

国際雑穀年は最大の好機で、相当数の方々が動画や資料を見てくださっています。でも、なかなか、雑穀や生物文化多様性、農耕文化基本複合、伝統的知識体系など、基層文化の大切さを、深く理解していただくことは難しいようです。山梨県の地元行政は人手がなく、協力していただけないようです。世の中に対して、植物と人々の博物館および個人としてできることはおおかたなし終えました。世論がどう変わるのか、今しばらく待ちますが、もう先はほとんどありません。このため、幹事や会員のご了承を得て、少し方向転換をして第三段階の活動方法に進みます。

① FAO 世界農業遺産の申請団体は雑穀街道普及会とし、準備活動を進めていきます。現況は下記のサイトにあります。

http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletstrasse/approval22811.pdf

② 相模原市役所での市長面会の後、詳細を改めて 5 月 8 日に**緑区長に説明**させていただきました。趣意書冊子は新たな賛同団体を加え、改訂（4 刷）しましたが、すでに残部はありません。近い機会に改訂（5 刷）を作る予定です。

http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletstrasse/ms23e4.pdf

4. 環境学習市民連合大学　Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdf などは下記のサイトにあります。

http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。人々との間に信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。自給農耕ゼミは引き続き開催しています。雑穀栽培会（西原）も連携します。

内容についての連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp　　木俣美樹男（企画室事務担当）

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NPO4 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。

今この時、人新世の変曲点で、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンス生き物の文明を日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは下記サイトにあります。

http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html

○　予定

1）自給農耕ゼミ（佐野川）：

国際雑穀年を契機として、在来雑穀の栽培法を学び、栽培者を増やして、絶滅寸前の栽培現況を改善しましょう。そのために、遺存的栽培地を結ぶ雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請し、山村において生物文化多様性を現地保全します。プランタでも栽培できるように栽培の手引きや雑穀種子を差し上げます。栽培から、加工・調理まで実習し、また、収穫物で美味しい料理やクラフト発泡酒を楽しみましょう。

第 13 回自給農耕ゼミ（佐野川）

日時：2023 年 6 月 25 日（日）9：00～15：00

場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩

実習：雑穀栽培の基礎技能を学ぶ。除草、中耕、追肥。ダイズの播種、小麦収穫。

話題提供者：宮本透、木俣美樹男（雑穀街道普及会）

協催：　NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO さいはら（雑穀栽培会）ほか。

協力：　ジャズ・ブルワリー

集合場所：上野原駅バス停 8：30 または現地近くの**石楯尾神社前（周辺地図）**。藤野駅の北側にある神社です。同名の神社が南にもあるので、間違えないでください。

https://map.yahoo.co.jp/?lat=35.65645&lon=139.11944&zoom=19&maptype=basic

駐車場はあります。更衣が必要なら、近くの公民館を予約してあります。

暑いと予測されますので、お弁当、飲み物、帽子、タオルなど持参ください。

協催：　NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO さいはら（雑穀栽培会）ほか。

協力：　ジャズ・ブルワリー

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp　　木俣美樹男（雑穀普及会事務担当幹事）

参加費は不要ですが、活動への任意の寄付は歓迎します。

交通案内：　JR 中央線／上野原駅南口からバスがある。

電車　＜行き＞上野原駅　甲府方面から　8：00 着。東京方面から　8：26 着
手洗いは南口下にもあります。
＜帰り＞上野原駅　甲府方面へ　15：59 発。東京方面へ　16：01 発

バス　＜行き＞上野原駅　8：35 発、石楯尾神社前　8：55 着。
＜帰り＞石楯尾神社前　15：31 発、上野原駅　15：53 着。

更衣など施設　　公民館

バス利用の方は、木俣が上野原駅南口エレベーター下でお待ちします。

雑穀街道普及会は関東山地南部地域農山村の小規模家族農耕によって伝承保全されてきた雑穀他の生物文化多様性を継承するための普及啓発活動を行い、あわせて FAO 世界農業遺産に登録申請の準備をすることを目的としている。2023 年は国際雑穀年です。

これまでに行った、このゼミに関連した動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開されています。

http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html

2023 年の自給農耕ゼミおよび NPO さいはら雑穀栽培会開催予定は添付します。

参考動画　　詳細は下記のウェブサイトを閲覧ください。

環境学習市民連合大学（milletimplic.net）

(33) 雑穀街道を FAO 世界農業遺産に - YouTube

【報告】FFPJ 連続講座第 21 回：日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか - ニュース レポート

(81) 国際雑穀記念オンラインイベント「つぶつぶ雑穀パワーフェス」第 2 回 - YouTube

○　報告

1）第 12 回自給農耕ゼミ（佐野川）

日時：5 月 21 日（日）8 名。**場所：**神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩

プログラム：

実習：雑穀栽培の基礎技能を学ぶ。畝立て、施肥（元肥）、播種の仕方を実習した。

座談会：雑穀について話し合った。

＊これまでに行った、このゼミに関連した動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開されています。

http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html

自給農耕ゼミと一緒に、佐野川の宮本さんの畑で収穫したキビとホップは山口さんの醸造所にお願いして国際雑穀年記念発泡酒としての下記の企画への仮申し込みを頂いています。

2）桂川・相模川流域協議会幹事会

4 月 5 日に開催されて、雑穀街道協議会準備会の賛同団体（名義使用）になる件につき協議があり、次の結論になりました「市民部会は賛同団体になることに異存はない。行政部会は 5 月 11 日の幹事会で賛否を明確にする」。5 月 20 日に総会もあったのですが、回答はありませんでしたので、否決だったのでしょう。賛同を求めるのは諦めます。

○予定

1）植物と人々の博物館　　自給農耕ゼミ（佐野川）　　2023 年開催年間計画案

山間地畑作農耕について、雑穀栽培の基礎技能と佐野川茶の管理作業を主に学ぶ。また、雑穀の民族植物学、雑穀とその料理の起源と伝播、インドの日本の雑穀料理と発泡酒醸造を学ぶ。有機肥料のみを使用する。

講師: 宮本透、井上典昭、木俣美樹男（雑穀街道普及会）、冨澤太郎、中川智（雑穀栽培会）ほか。
＊西原での活動も協働実習として案内する。
主催：NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、ワノサト・プロジェクトほか。
参加費不要、任意の寄付は歓迎。
申込先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男。
詳細は http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html
② 6 月 11 日（日）ローカリゼーション・デイ
○ 小菅村植物と人々の博物館、標本整理
③ 7 月 23 日（日）：第 14 回
実習：除草、中耕、追肥。講義:雑穀、その料理の起源と伝播。発泡酒の仕込み見学。
○ 小菅村植物と人々の博物館、標本整理
④ 8 月 20 日（日）：第 15 回
実習：防雀網張り、講義:日本雑穀のむら
○ 小菅村植物と人々の博物館、標本整理
⑤ 9 月 3（日）：第 16 回
実習：キビの収穫、収穫祝い会食（雑穀料理づくり）。
⑥ 9 月 17 日（日）：第 17 回
場所：相模原市緑区相模湖、ヤギ園。実習：キビ脱穀、発泡酒の仕込み見学。
○ 小菅村植物と人々の博物館、標本整理
⑦ 10 月 1 日（日）：第 18 回
実習：雑穀見本園収穫、防雀網片付け。
○ 小菅村植物と人々の博物館、標本整理
⑧ 11 月 19 日（日）：第 19 回 実習：コムギ、オオムギの播種
⑨ 12 月 10 日（日）：第 20 回 実習: 麦踏み。懇談会：
⑩ 1 月日 ：第 21 回 実習：麦踏、味噌の仕込み
⑪ ２月日 ：第 22 回 実習：麦踏、醤油の仕込み
⑫ ３月日 ：第 23 回 懇談会

2) **上野原市西原でも NPO さいはらの雑穀栽培会**があります。あわせてご案内します。ご参加ください。

お山の雑穀応援団 参加者募集中

「消えかかる地域の雑穀（キビやアワ）を、みんなで育て、食べ、学び、次世代につなぎたい。」 より多くの方と共に受け継いでいく形を作るため、2018 年から栽培に取り組んできました。コロナ渦中、活動をお休みしていましたが、形を少し変えて、再スタートします。「雑穀を食べるのが好き」、「雑穀を作ってみたい」そんな皆様とともに雑穀を作り、地域のあちらこちらでキビやアワの穂であふれる畑が広がるのを夢見ています。ぜひご参加ください。
【年会費】3,000 円（NPO さいはらの会員）

【今年の年間スケジュール】月に一度の共同作業で、雑穀を栽培します
6 月 11 日（日）草取り
7 月 9 日（日）草取り、土寄せ
8 月 6 日（日）鳥よけネット設置
9 月 10 日（日）収獲
10 月 1 日（日）脱穀
11 月 5 日（日）収穫祭、雑穀を食べる
＊　来られる会だけの参加、途中からの参加、通して参加できなくても大丈夫です。
＊　平日でないと参加できないという声もありますので、臨時で平日作業日も設ける予定です。ご興味ある方はお問い合わせください。
＊　収穫した雑穀は、11 月のイベントで参加者で食べます。たくさん採れた場合はびりゅう館の厨房で使います。
【申込み・問い合わせ】NPO 法人さいはら　担当：冨澤太郎
メール：　taro.tomisawa@gmail.com　　電話：　0554-68-2100（びりゅう館）

3）ローカリゼーション・デイ日本分科会

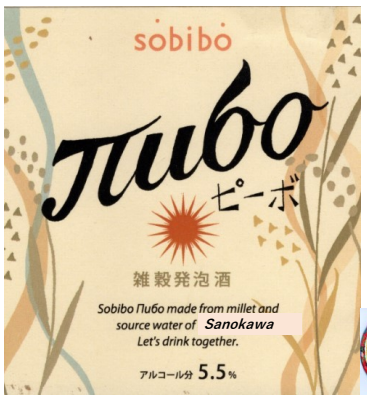
日本には縄文時代という 1 万年以上に渡って、自然と共生した歴史があります。その歴史の文化的遺伝子の一つが近年見直しが始まっている「雑穀」です。
国連は 2023 年を国際雑穀年としました。栄養価の高さと保存性、乾燥などに強い飢饉対応の種として、食糧の安全保障と家族農業の観点からです。
日本では中山間地域で現在まで長老の篤農家たちが種や栽培技術や様々な知恵を保存し継承してきています。また雑穀の新しい料理法を考案・実践している人々もいます。

ローカリゼーション・デイ日本では、これらの太古から続く日本の伝統食を見直し、温故知新で、現代人のわたしたちが、これらとどう向き合い、取り入れていけるか、地域で守り伝えてきた在来種を守り、食文化を守るために地域でできること、次の世代にどう手渡していけるのかを、実践者の人々を交えて考えてゆく会とします。　参加費無料・オンライン開催／ローカリゼーションデイ日本 2023ー答えはローカルにある！ ｜ Peatix
日時：6 月 11 日 14:45～16:00
分科会テーマ：雑穀＝食のローカリゼーション
分科会構成案（75 分）　分科会ホスト・オペレーション：梶間
１、国連 FAO 制作：国際雑穀年 PV(1’02”) https://youtu.be/hrJCu-c0T6c
２、イントロ　ナビゲーター：谷崎テトラ　解説：木俣美樹男　（15’00”）
◎雑穀とは何か？
◎今なぜ雑穀なのか？
◎日本における雑穀の歴史と位置づけ
３、現代の雑穀の実践者たち（25’00”）

◎西原・篤農家・中川智氏（ビデオ出演）◎やまはた農園・冨澤太郎氏　◎藤野佐野川　宮本茶園・宮本透氏
◎国際雑穀年・東京学芸大学創基 150 周年記念雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ復刻の話・本間由佳さん（ここまで 15’00”）
◎未来食つぶつぶの創始者・大谷ゆみこさん　◎雑穀栽培とつぶつぶ料理教室の話・小川町・岩崎信子さん（10’00”）
４、雑穀のうた「草の結び」by Upepo Upopo（ビデオ演奏：歌５’17”）生出演でお話し（合計 10’00”）
５、雑穀街道を世界農業遺産にしよう。（15’00”）
雑穀街道のスライドショーをみながら、雑穀街道の話と世界農業遺産に登録申請を準備している話。「植物と人々の博物館」の移転の話。メディア作りの話。
６、質疑応答（10’00”）
主催：ワノサト・メディア・プロジェクト
協力：雑穀街道普及会、NPO 法人自然文化誌研究会、植物と人々の博物館
トランジションタウン小金井、NPO 法人トランジション・ジャパン（案）

4）雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ　復刻企画

目的：国際雑穀年を記念し、雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録する活動を普及促進するために、雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ（素美暮発泡酒）を復刻します。雑穀街道美味の新商品になることを期待します。前回のラベルを基にした本間由佳さんのデザインは改訂中です。国際雑穀年・東京学芸大学創基 150 周年記念として、醸造します。同窓会紙にも案内していただきました。以下は仮のラベルです。学芸大学のロゴも入ります。



雑穀街道を世界農業遺産に登録しよう

麦芽使用率ｘｘ％以上
Ｚｚ産麦芽70％
その他の材料：相模原市緑区産
日本の里100選佐野川の水100％
キビ30％、ホップ

内容量330ml

国際雑穀年記念2023
雑穀街道普及会

材料・醸造関係

①宮本茶園において、自給農耕ゼミ（佐野川）で栽培したキビ 10kg、およびホップを使用します。製法は前回のマイクロブルワリー（馬場さん）と同じ予定です。中国山東省で「会盟を誓う固めの杯」に用いたキビの即墨老酒は、焙煎工程を加えて、紫色を帯びた濃褐色であり、独特の芳香と苦味、やや酸味のある甘さをもち、黒ビールに似ているといいます。ソビボ・ピーボはイギリスのギネスビールのような味わいになります。

②藤野の Jazz Brewing Fujino　（山口解さん）で醸造します。

2018 年、神奈川県相模原市にある陣馬山の麓にオープンした超小規模醸造所。日本の里山百選にも選ばれた旧藤野町佐野川の名水を使用し、非加熱、無濾過。使用している酵母は仕込み毎に使い切りの純粋培養された活性度の高い酵母でこだわりの醸造を行っています。

3）山口さんの通常販売価格は 6 本、送料込み 5,500 円でネット販売されています（遠隔地は送料が異なります）。これに加えて標記目的のために、よろしければ、任意のご寄付を加えていただければうれしいです。

仮予約方法

企画へのご質問や仮予約申込先は雑穀街道普及会、事務幹事　木俣に下記メールでお願いします。　　kibi20kijin`yahoo.co.jp

仮予約が限定 50 口になりましたら、改めてご連絡し、代金などをお振込みいただきます。**現在、仮予約 36 口**です。醸造を始め、1 月ほどでできます。冷蔵で 1 年間保存できますが、でき立てのほうがおいしいので、まず事前に仮予約を頂きます。1 ロット 330ml 瓶 300 本、製造価格約 20 万円、これらにラベルデザイン・印刷代、送料などの経費が加わります。

企画団体：植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ（佐野川）、雑穀街道普及会ほか

5）FAO 国際雑穀年のウェブ・セミナー

FAO ローマ本部主催のウェビナーに招待されました。7 月 11 日に、“A Historical Sketch of Millets in Japan”で準備しています。

6）雑穀研究会シンポジウム案内

1.日　時　2023 年 8 月 24 日（木）

2.場　所　北海道上川郡剣淵町仲町 16-1　株式会社けんぶち VIVA マルシェ

3.日　程　8 月 23 日（水）各自で旭川市宿泊

8 月 24 日（木）8:30　　旭川市発（レンタカー乗り合い）

10:00～12:00　総会およびシンポジウム 於:農業総合振興センター

12:00～13:00　昼食

13:00～15:30　キノア圃場、加工施設見学　懇親会（有志）　　宿泊（各自）

8 月 25 日（金）各自自由解散

4. 費　用　参加費 5,000 円（宿泊、空港バスは各自）

5. 宿泊先　JR 旭川駅から近くのホテルに宿泊して下さい。

旭川プレミア CABIN ホテル、スーパーホテル、スマイルホテル、ホテルウイングインターナショナル、JR インホテル、ルートインホテルなど

6. 申込先　　参加は完全予約制とします。

雑穀研究会総会、シンポジウムの申込先（お問い合わせも）

庶務幹事(担当:加藤太)　zakkoku.shomu@gmail.com

氏名、所属、メールアドレス、電話番号、研究発表の有無を記載して送信してくださ

い。
申込み締切：2023 年 7 月 1 日正午。
なお、受け入れ先の都合で日程が前後する可能性があります。確定次第 HP、ML で連絡します。

7) International Millets Conference, 2023

***Theme**: "Promoting Millets through Interdisciplinary Research:New Varieties and New Markets for a better Tomorrow!"*

Dates: Tuesday, Aug. 1, - Thursday, Aug. 3
Gering Civic Center, Gering, Nebraska, USA
Organized by

Conference URL: https://preec.unl.edu/international-millets-conference-2023
Conference Flyer
Registration and Hotel Reservation:
Hampton Inn - 301 US-26, Scottsbluff, Nebraska, USA - (308) 635-5200
Monument Inn and Suites - 1130 M St, Gering, Nebraska, USA - (308) 436-1950
Block Name: University of Nebraska Millet Conference
Block Ends July 7th
Total Cost with taxes : **$138.64**
Conference details (Abstract, poster, and local travel and attractions): Coming Soon
Keynote Speaker(s): (Tentative)
Representative from Nebraska Department of Agriculture
Representative from Colorado Department of Agriculture
Chris Stum, President, High Plains Millet Association
Representatives of the US Millets Industries
Leon and Cheryl Kriesel, CEO & owner, Kriesel Certified Seed Inc., Gurley, Nebraska
International Panel of Speakers from India, Italy, and Switzerland
Topics addressed by national and international scientists and millet industry representatives:

Learn from others. Millets' production in the US and around the world.
Rendezvous for millets buyers (food and feedstuff) and sellers.
Presentations by US High Plains producers, country representatives, millets breeders and cropping systems agronomists, millets industry partners, grain handlers and processors, millets products (food, feed, and beverages) developers, millets existing and new markets.

Who should attend?

Producers - Crop consultants - International and domestic millet buyers and sellers - Millet grain handlers and processors - Food companies of specialized grains - Ag. Extension personnel - Scientists, researchers, and students working on millet agronomy, breeding and genetics, quality, and new product development

Delegates (Tentative)

Asia: China, India, Japan, Korea, Taiwan, Malaysia, Thailand, and Hong Kong
Europe: Germany, Switzerland, Italy, France, and Slovenia
North America: Canada, and USA

AGENDA SUMMARY (Details coming soon)

Field Tours (Aug. 1 afternoon and Aug. 2 morning): Kriesel Seeds, Inc. (Gurley, Nebraska) and High Plains Agricultural Laboratory (Sidney, Nebraska).
Conference Presentations: Tuesday, Aug. 1 through Thursday, Aug. 3
Questions: *contact Dr. Dipak Santra (+1-308-765-2324; dsantra2@unl.edu)*

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ヴェトナム）、大澤由実（神奈川）ほか

公式 HP：植物と人々の博物館　http://www.ppmusee.org/

雑穀街道普及会　http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html

事務担当幹事　メールマガジン発行：木俣美樹男　kibi20kijin@yahoo.co.jp

栽培担当幹事：宮本透

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録　http://www.milletimplic.net/

エコミュージアム日本村／ミューゼス研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表　亀井雄次（山梨小菅村）

自然文化誌研究会：代表　中込卓男（東京）、副代表　中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）
http://www2.plala.or.jp/npo-inch/

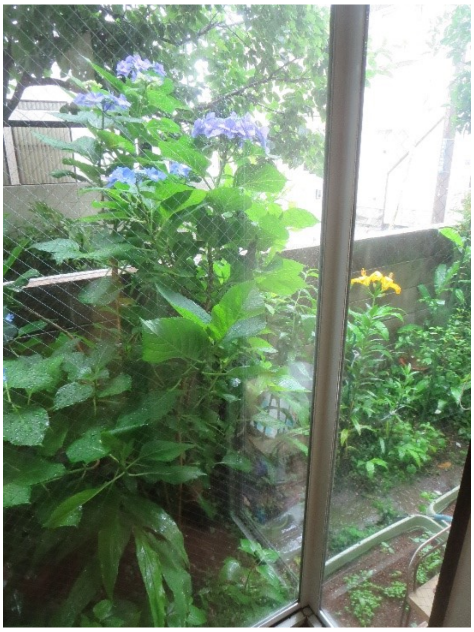
事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村）　npo-inch@wine.plala.or.jp

環境学習市民連合大学　http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html
企画室事務担当：木俣美樹男　　kibi20kijin@yahoo.co.jp
〜〜〜

写真

雑穀街道巡検、日本三大奇矯猿橋にて、稲本正さんと谷崎テトラさん。自給農耕ゼミ（佐野川）雑穀の播種。

イネやハトムギは多年草で、他の一年草雑穀と比べて発芽が遅い。



エディブル・ウエイのプランタにまいた雑穀類、ベランダの鉢に生えた自生キビ、小庭のアジサイとユリ。

おわりに　　{ひとりごと／編集子私言}

私は40年ほど国公務員として勤めると同時に、週末にはNPO法人で任意・自費で公共の環境保全・教育活動をしてきました。公務に勤しみ、年次休暇はほとんどとりませんでした。市民や学生とお付き合いするのは、皆さんもお仕事や学業があるから、週末が中心となります。行政職員の方々は、当然のことですが、勤務外には応対してくださいません。週日に、市民が仕事を休んで、窓口に相談に行っても、おおかたたらいまわしに会い、取り合っていただけません。情けないことに行政職員には限定された職務を越えてまで地域への愛着、誇りや先人への敬意がないのだと、幻滅（R.ドーア）とバカの壁（養老孟司）を強く感じました。

地域の有力者は市民活動が上手く進むようになると、おおかた嫉妬心ゆえでしょうか、必ず撥撫いじめ行動に出ました。地域のための自主的な公共活動は何度も追い出され、潰されてきたのです。ごく親しい古老たちからはきつく諭されてきました、移住はするなと。この国の人々の撥撫いじめ行動、共同絶交宣言などの行為は犯罪です。陰湿なムラ群れ社会は衰退するばかりです。いつになっても、気づかないのでしょうか。学校教育履歴ばかり高くても、個人学習履歴は乏しくて、知能はとても低いようです。農山村移住や交流政策を提案してきた編集子は、現実を受け入れないで、エコミュージアム日本村という理論的な過ちをし、無駄な努力をしてきたのでしょうか。

人間におけるこの善意と悪意という謎の課題はなかなか解決できていません。同じ志を持った中村哲さんは異国アフガニスタンで、多くの人々に感謝されながら、暗殺されました。編集子は母国日本で、多くの人々の厚意に支えられながら、撥撫を受け続けています。しかし、残り少ない余生において、いわば始末書として、実践経験から随筆集『生き物の文明への黙示録』、これら経験に基づく、心の構造と機能に関する理論『環境学習原論』を記述しています。見聞し、体験した事実を公正な記録（個人情報は削除）として残しておきます。

人新世において、生き物の文明に向かいホモ・ルーデンス（遊び人、ホイジンガ―）になるのか、AIに隠れるホモ・デウス（神人、ハラリ）に自己家畜化されて滅びるのか、現在、この分岐点でホモ・サピエンス（私たち現生人類）が生存への道、生き物の文明を選ぶための時間はあまりないようです。